納本

特 253
316

滿洲國視察談

尾上常務取締役述

昭和十三年十一月十九日
第一銀行本店に於て

3
4

始

特253
316

滿洲國視察談

尾上登太郎氏述

折角こんな好い天氣の土曜日にお集り願ひまして洵に恐縮でございます。折角お集り願ひましても餘り纏つた話も出來ませず、尙ほ色々の統計材料其他は隨分澤山、二貫目もある位貰つて參りましたので、數字等は澤山あるのでございますけれども、さう云ふ事は又調査課の方でお調を願ふことに致しまして、極く大まかに私の感じて來ました點を主としてお話申上げたいと存じます。話の都合上、南回はり行きました順路から紀行的に申上げて、其中に感じましたことを入れて行きたいと存じます。一行は六日に神戸を立ちましたのでありますが、私は私用の關係でそれに加はることが出來ませぬでしたので、廿日の朝大連へ行つて一行に加はる積りで飛行機に乘りました。朝の七時に羽田を出まして、十時二十分に福岡に着きました。飛行機は私は二度目でありまして、前に非常に樂であつたことの經驗を持つて居りますので、安心して參りましたのであります。果して航路は穩かで、どちらかと言ひますとペーヴした道を自動車で走りますよりも樂な工合で、動搖も別段大したものはありませぬ。箱根も何ともありませぬでした。只鈴鹿の山の上で少しエア・ポケットがありまして、四五回動搖がありました。まあエレヴエーターが急に落ちた一寸の間のやうな感じだけで大したことなしに濟

みました。あと淡路島を出ましたときに一寸と、それから福岡に參ります手前の飯塚の上邊りで一寸さう云ふことがあつただけで、非常に平穩に福岡に着きました。福岡で乘換ることになるのでありますが、御承知の通り近頃の福岡は航空路の中心になつて居りまして、大體時間も同じやうなときに各地向きのものが出ますので、滿鮮行のローカルの分が最初に出ました。それから臺灣行が出、北支行が出、中支行が出ましたが、私共のが中々出ないので、どうしたのかと思つて聞きますと、どうも途中の天候が惡いから出ないかも知れないと云ふことでありました。がつかりして居りました所が、そのうち出ることになりまして立ちました。かれこれする中に海峽を渡つて朝鮮の上に出たのでありますが、大邱で着陸致しました。此處は通り拔けて京城で着陸する筈のが大邱で下りたのでどうしたことかと聞きましたら、京城の近くの秋風嶺に雨が降つて眼界が遮ぎられるから、殊に秋風嶺は日本の飛行機の航路の中一番難航路で、エア・ポケットが大きいので三十米ばかりも落ちるやうな場合がある、眼界が見えないときは山へ打突ける虞があると云ふので今日は此處へ泊つて飛んで行かぬ、と斯う云ふことでありました。どうも空模樣を見ましても別段風もなく極く穩かな、唯幾分曇つて居ると云ふだけでありますので、甚だ殘念に思ひましたけれども仕方がない。と同時に斯う云ふ工合で、こんな空合でも行かないならば飛行機は非常に大事を取つて呉れるのであるから安全だと云ふ感じを深めまして、飛行會社が出す場合ならば乘つても決して危險のないものだと云ふやうに感じて、成たけ

是から飛行機は出れば利用したいと云ふ氣持を愈々强めました次第であります。併し大邱で下ろされましたのが午後の一時過ぎであります。が奉天の方に參りまする汽車は午後の九時頃に急行が出る。それ迄はローカルの汽車しかないのでどうも致方なしに九時のに乘ることに致しまして、八時間程大邱に居りまして、大邱の市場を見ましたり何かして待つ間を潰して、其九時の急行に乘りました。私のことですから汽車の中へ乘ると直ぐに寢てしまひ、目が覺めましたときには平壤を過ぎて居りまして、丁度平安北道へ掛かつて居りました。滿洲興業銀行の總裁が乘合せて居りましたので色々お話を聞くことが出來まして、非常に仕合せした譯です。一寸聞けないやうなことを色々聽かされて、滿洲に對する豫備知識も十分作り得ましたのであります。

それから十一時頃に新義州へ着きました。鴨綠江へ差掛つた譯であります。此鴨綠江は一寸見た所——割にこちらで想像して居つたのが大き過ぎたのか、餘り大きく感じませぬでした。併し水は洋々と流れて居りました。其鐵橋を渡りますと安東縣になります。此新義州は今の所非常に活氣付いた氣持が見られるのであります。御承知の通り鴨綠江水電の開發に依りまして、最初は何でも八十萬キロ近く出來上らすやうであります。あと尙ほやつて完成すれば百二十萬キロになるさうでありますが、其電力の工事ももう大分着々と進捗して行つて居りますので、近い中に供給出來る。さうすれば其電力を利用して色々の工業を起さうと云ふ其氣分が新義州に窺はれるのであります。さう云ふ工業的の

將來性の氣分を味合ふと同時に、私は新義州の町を見まして、大きなチャーチが二つばかり眼に着きました。それまで平安南道で目覺てから平安北道をずつと通つて行きましたが、驛々の小さな町にでもチャーチがあるのであります。私には此チャーチが眼に着いて居りました所、新義州へ來て尙ほ驚いたのは大きなものがありました事です。私は以前朝鮮をぐる〳〵廻つて、是で朝鮮は五回目なのでありますが、前にも感じましたのでありますが、耶蘇教の人達が、朝鮮の哀れな人々や王朝時代に非常に誅求せられて居つた其民の靈を救つてやらうと云ふので、熱心に彼處で傳道せられたのを聞いたり、又現實に其チャーチや又本國より送金せられて來る巨額な傳道費を見て、斯う云ふ世の中に於きましても、人道愛に燃えたクリスチャンのやつて居りまする仕事には、非常に感じを深くさせられたのであります。去年天草へ參りましたときに天主教の會堂を見、其神父が十數年獨身で彼處で傳道に從事して居られる有樣を見たときと同じやうに、斯う云ふ世の中に於きまして、あゝ云ふ仕事に自分を犧牲にして從事して居られると云ふことを感心し、世界平和と宗教と云ふ事に關して色々と考へさせられた譯であります。

安東縣は御承知の通り滿洲國の南東の入口であります。是は前から相當繁昌した町であります。人口も二十萬以上ございませう。滿洲國になります前は大分密輸出入の本場で、非常に支那人の活躍して居つた場所であります。滿洲國が出來ましてから監督を嚴重にして取締られましたので、其方は

寂れて居るのでありますが、やはり貿易としましても年額一億位はあるのであります。尙ほ鴨綠江の水電は滿洲と朝鮮が半々と云ふことになつて居りますので、其處で出ます電力工事完成の曉は百二十萬キロの半分、六十萬キロを滿洲國が使用出來ると云ふので、其電力を目當にやはり何か準備的に動いて居るやうに、停車場から見ましても感せられるのであります。其電力が非常に安く豐富に供給せられると共に、御承知の通りあれから大連の方へかけ、又大連から遼東灣の方へ上がりまして鹽田の多いと云ふことです。鹽の非常に澤山出る處であります。鹽と電力と——是はもう皆さん御承知の通り化學工業の一番大事なものでありまして、其大事なものが二つ其處に揃ふと云ふことでありますので、此方面の發展は相當期待して宜いのだらうと感せられるのであります。尙ほ安東縣は東に鴨綠江を控へて居り、西に小山が二つばかりありまして、非常に景色の好い處であります。安東縣を出ましては所謂安奉線になる譯でありますが、安奉線は本溪湖を出まして暫くする迄と云ふものは、やはり溪間を行く線路であります、景色は極めて宜しうございます。割合に內地に似て居りますが、又內地と變つた趣があります。安東縣を出まして間もなく五龍山と云ふ山が右手の方に見えますが、是は岩山でありまして、丁度山ひざが龍が上つて行くやうに見えるのであります。さう云ふのが五つあるので五龍山と云ふのでございませう。非常に面白い岩山であります。さう云ふ山がちよい〳〵其邊にあります。それから分水嶺を越しまして滿洲平野の方に流れる水、是は太子河の上流になるのでありま

せう。其方へ掛かつて參りますると段々谷が廣くなり、又河が大きくなつて來まして、其谷川が非常に面白い景色を呈して居ります。本溪湖の二里程上流になつて居りまする處に釣魚臺と云ふ川の中へ突出た岩があります　其岩の上に色々の木が面白く生えて、さうして形の好いお堂のやうな亭がありますが、其風景は一寸内地でも見られないやうな南畫に能くある好い景色でございました。尙ほさう云ふ谿間でありますので水が豐富に引けますから、水田に爲し易い狀態にありますから朝鮮人が非常に澤山入込んで居ります。本溪湖邊までは滿人と朝鮮人とどつちが多いかと思ふ位に、此沿線には朝鮮人が多いのであります。是は御承知の通り滿人は水の中へ入ることを非常に厭ひますので水田は朝鮮人でないと作らない。水田に適して居る良い土地は朝鮮人が入り込みまして、それを水田にして居ります。朝鮮もさうでありますが、寒い滿洲の方へ參りますと楊柳　柳の一種が非常に多い。是は餘程大きな木もありまして、柳と百姓家及び其下に居る騾馬、驢馬、石臼など〻云ふのがちよい〳〵目に映つて參りまして、滿洲らしい氣分がぽつ〳〵に加はつて參りました。本溪湖を出まして少し參りますと谿はもう段々擴がつて遂に山が見えなくなり、奉天近く蘇家屯と云ふ處まで參りましたのですが、其處まで來ますと前後左右山は一つも見えない。一望千里と云ふ平原になりました。其蘇家屯と云ふ處で私共は下りました。それは一行が大連を其朝立ちまして、湯崗子と云ふ溫泉場へ來て其處で泊つて居るのでありますから、其一行に加はらうと云ふので、此處で乘換へまして湯崗子へ參

りましたのが午後の九時頃でありました。其處で宴會もやつて居りましたけれども、そんな遲く列するのも失禮だと思つて挨拶だけして休養した譯であります。其翌日は溫泉場の周りを見ました。是は滿洲では溫泉は非常に珍しいのでありまして、平地に出て居る溫泉でありますが、相當湯も豐富で透明であります。大きな設備が出來まして、立派な宿屋がありましたが、其外へ出て見ますと例の露西亞人の好きな泥の湯がありました。それは池に湯が湧いて居るのでありますが、其處に鼠色のどろ〳〵した泥がある、それを汲んで來て他の湯桶に入れて、其泥の中へ這入つて暖まるのださうであります。それは露西亞人が非常に好んで、露西亞人があの方面で華かであつた時分のさう云ふお湯の場所の跡もありました。別府では砂湯がありますが、どろ〳〵した湯の中に入る泥湯は活動寫眞で見たことはありますが、初めて見ました。隨分物好きなものだとも思ひました。

それから自動車で鞍山に向ふことになりました。鞍山は湯崗子からは四十分位の道程であります。鞍山までの間はやはり平地で、菜なり棉なり高粱なり大豆なりの畑を通つて行くのであります、其行く間に小川を通るのでありますが、道はちやんとペーヴした道たのに不思議なことに小川に橋がない。川はやはり石で固めてあつてそれを通る。是は朝鮮にも能くあるのでありますが、ペーヴした道の川に橋がないと云ふのも是は所謂滿洲の一つの特徵で、日本に一寸見られない風景であります。間もなく鞍山と云ふ山の麓を通るのであります。此鞍山が東鞍山と西鞍山とありまして、東鞍山が馬の

鞍のやうになつて居るので鞍山と云ふのでありますが、之が地面の上に出て居りまするだけで一億噸の鐵鑛石がある。西鞍山の方は九千萬噸ある。是は地面の上にあるものだけであります。まだそれは採掘を是から始めるので、今から設備しようと云ふ狀態でありました。それを通りまして鞍山の製鐵所へ參りました。此製鐵所の設備は皆さんも御承知の通り八幡などゝさう大して變りはありませぬ。今七十萬瓲の銑鐵を出して居ります。其中六十萬瓲を其處で鋼鐵にして居ります。七十萬瓲と申しますと大正の初め頃の八幡製鐵所の生産額と略々似て居ります。あの當時の八幡を御承知のお方はあれとまあ大體同じやうな規模と思はれたらば宜いのぢやないかと思ひます。其處で設備の上で一番變つて居りまするものは、例の鞍山にしましても又其附近に出まする鑛石にしましても所謂貧鑛でありまして、四〇%以内三二、三%位しか鐵分を含んでゐない鑛石であります。是のまゝでは到底經濟的に鐵にすることが出來ないのでありまして、どうしても之を五〇%以上のものにして、所謂富鑛と同じやうにして熔鑛爐に入れなければ、石炭なり其他を非常に澤山食つて又固まり難いと云ふ譯であります。富鑛に出來るや否やと云ふことが問題であつたのであります。富鑛に出來ます前までは悲觀せられて居つたのでありますが、この鑛山は明治四十一年か二年頃に滿鐵の社員が發見したのでありますが、滿鐵の方ではそれを其後富鑛同樣にする選鑛の方法を一生懸命に研究しまして、大正十一年だつたと思ひますが、其時に之を相當有利に選鑛し得る方法を發明して、それ以來之を大いに經濟的に價

値づけた譯なのであります。之が滿洲の鐵の一番大きな問題になるものであります。大體此鞍山附近にあります十何億瓲或は二十億瓲以上もあると言はれて居ります鐵鑛が殆ど皆貧鑛でありまして、此處理が巧く出來なかつたらそれは寶の持腐れであつたのであります。それが成功したのでありますから、二十億瓲前後の鑛石が物を言つて來た譯であります。其選鑛の方法は本溪湖などゝ違ひまして、鞍山の鑛石の質が惡いものでありますから、碎いて最後は磁石で分けるのでありますが、それを直ぐやると云ふことが中々困難でありましたのが、それを碎く前に蒸す方法を發明したのであります。さうして磁選及び鐵を造るのに邪魔をするものを氣化して出す。其上で鑛石を軟くして粉碎するのに便利にすると云ふ方法であります。之は獨逸邊りでもやつて居つたのでありますが、それをずつと改良をして鞍山獨特の良い方法を拵へたのです。さうして瓲あたりどの位掛かるのかと聞きましたら、四圓位で出來ると斯う言つて居りますが、私が色々質問した點の答を綜合しますと、六圓以内で出來さうに考へられて來ました。之が所謂鑛石を採る所から勘定して六圓以内で出來ると言へば、南洋からこちらへ持つて來る運賃が六圓以内でなければ對抗し得る。斯う云ふ狀態になつて居ります。南洋からは現今九圓以上の運賃を要しますから非常な有利な狀態になつて居るのでありまして、あの二十億瓲の殆ど無價値のやうに見られて居つた鐵鑛が物を言つて來た。斯う云ふ狀態であります。それからさう云ふ工場の熔鑛爐なり其他を見ました後、今度は

今鐵鑛を採つて居ります大孤山と云ふ處へ參りました。是は機動車で二十分位で參れる處であります。其大孤山もやはり山全體が鐵鑛石であります。それを爆破する譯であります。一番頂上の方から爆破して行くのでありますが、最初に大きく爆破するのでありまして、穴を七八十尺も下してそれに爆藥を詰め爆破する。其爆破した殘りを又小さい爆破をするのです。大きな爆破には其時には出會しませぬでしたが、丁度小さい爆破を十二時にやると云ふので十二時に其處へ行つて、數十箇所ぽん〳〵と云ふ實景を見た譯であります。爆破して崩れて細かくなつたものを直ぐ貨車へ下し入れて運んで居りますから、採鑛、運搬と云ふことに付ては非常に廉價に出來るのであります。之がまだ此山だけで採り盡すのに相當掛かるやうでありますが、まだ一億瓲位は大孤山だけであると云ふ話でありました。玆で一寸景色の方の話になりますが、其大孤山の麓から右の方をずつと見まするとと非常に巍峨たる山が澤山あります。其中でも最も嶮岨なやうに見える形の好い山が千山と云ふ山であります。其上には古いお寺もありまして非常に景色が好い。今時は紅葉が好くてとても內地で見られないやうな好い場所だと云ふ事です。極く近くに見えるのでありますが、其處には取殘された小賊が居るので、此間も誰か登つたものが盜難にあつたといふ事です。それで其邊の人も探勝に行くことが出來ないで殘念だと言つて居りました。鞍山はさう云ふやうな狀態にあります。此處で私は一つ質問致したのであります、それは鞍山は鐵鑛石は自分の製鐵所の近くで採取出來るが、製鐵に必要なる石炭は是は撫順と本溪湖から持つて來て居るのであります　所が撫順と本溪湖共に百キロ以上離れてゐますが、現今鐵を造りますのには鐵鑛一瓲に對して石炭が二瓲近く要る譯であります。尙ほ又其銑鐵が出來ました後鋼にするに付きましても、それを又色々加工するにしましても石炭が要るのであります。石炭の方が鐵鑛石よりも餘計に何倍か運搬しなければならぬ。それを百何十キロと云ふ處から持つて來るよりは、寧ろ其石炭の近くの方へ製鐵所を持つて行つて、鐵鑛をこちらから運搬して行つた方が宜いのではないか、水も豐富な渾河の附近で奉天の近くで、本溪湖へも撫順へも近い所へ持つて行つた方が宜いぢやないですかと申しましたが、之に對しては私の腑に落ちる答辯を得ることが出來なかつたのであります。運賃問題に付きましては撫順炭が大連迄三百キロ以上も鐵道で運んで來て內地炭と內地で競爭の出來る事その他疑問の點が澤山あります、之を論ずると長くなりますから別の研究に讓ります。

鞍山を見まして、それから汽車で今度は奉天へ參りました。其途中例の日露戰爭に有名な遼陽や沙河を通りました。奉天に參りまして、翌日は直ぐ撫順へ參ることになりました。朝早く撫順へ出發致しました。是も自動車で一時間位であります。奉天城を西から東へ突切りまして、郊外へ出で、大きな柳の並木を通つて暫くすると渾河と云ふ河の緣に出ます。渾河を遡りまして撫順の町に參りました。撫順のことは皆樣も何回かお聞きになられて能く御存知と思ひますので、簡單に申したいと思ひますが、此處では何と言つても露天掘が非常に大きなものです。大分此頃深くなり過ぎて居りますの

で、運搬して上つて來るのに傾斜の度が強くなるから經費が餘計掛つて、百八十米位までの深さでないと引合はないのであります。所が二つ並んでありますので、今度は二つを一緒にして、さうして延長線を長くして傾斜の程度を低める計畫中のやうです。斯うすると二百五十米位まではペイするやうでありまして、場合に依つたら三百五十米までペイするのではないかと云ふことです。其二つを一緒にする工事に千五六百萬圓掛かるらしいのでありますが、やるやうであります。併しそれをやりましても、露天掘としましての運命は大分底の方まで行つて居りますので、割合にもう少いのではないかと思ひました。それで竪坑が非常に大きくやられて居ります。東郷坑、大山坑では間に會はないので今度は龍鳳坑と云ふ大きな竪坑が出來ました。それを見に參りましたが、それは一日四千瓲出さうと云ふ計畫でやつて居るやうであります。それでありますから年に百五十萬瓲ばかり出る譯です。エレベーターの裝置と云ふのは大變に大きなものでありまして、地上二百尺のタワーが出來て居ります。其タワーの一番頂上に捲上機があります。是は大變な大きなもので、それが唯石炭を捲上る爲の裝置なのですが、丁度丸ビルの高さが百尺でありますから、倍の高さのエレベーターの裝置になつて居る譯であります。其他に尙もう一つもつと大きなものを作るのだと言つて今計畫して居ります。斯う云ふ竪坑の方が經濟的に行くやうな狀態になつて、竪坑が盛に出來て居りました。是等全體合せまして今九百五十萬瓲の炭が毎年出ることになつて居ります。此炭が方々へ行つて居る譯であります。此處

では二十三萬キロの火力の發電所を作つて、其電力を奉天其他へ供給して居るのであります。次はオイルシエールの仕事でありますが、上述の露天掘の炭層の直ぐ上にあります土が五%位の油を含んで居る。其油を絞取らうと云ふのであります。是も最初は研究が中々捗取らないで算盤には乘らなかつたのでありますが、非常に長い間の苦心慘憺の結果獨逸でやつて居りますものに改良を加へまして、撫順獨特のオイルシエールの油を取出す方法を發明せられまして、今それでやつて居りますが、現在の油の時價にしましては相當の利潤が乘るやうな計算で出來て居るやうであります。十四萬瓲今出て居りますが、是は三十萬瓲位出るやうな計畫に大きくするやうであります。此處で其發明をしまするに付きまして、長谷川清治と云ふ人の苦心談があります。其篤學者が一生懸命に研究しまして、實に心身を捧げて研究して居りましたが、どうも出來ない。殆ど完全に近く行つて今一歩と云ふ所で其苦心を嘲笑した人のある事を聞き、常に心身疲勞して居つた折でもあり憤慨して遂に自刄したのであります。所が其後を受繼いだ者が一寸した變更で直ぐ完成し、その爲めあの大きな工業が算盤に合ふやうになつたのであります。さう云ふ篤學な義人の犧牲もありまして、構内に同氏の銅像が立てられて居ります。私は感慨深く感謝の意を表しました。撫順は其他輕金屬のアルミニウムを礬土から採る工場もあります。是は軍の關係で中は能く見せて貰へなかつたのでありますが一寸覗いて歸りました。撫順の見物はそれだけでありましたが、隨分廣い場所でありますので中々時間を取られました。晝飯

を倶樂部で御馳走になりました。其の時丁度私が所長の久保理事の隣に居りまして、色々と雜談中に（久保さんはずつと前から此處に從事して居られ工學博士です）あなたは博士ですねと申しますと、いやそれなのですよ、私は博士が偉いと云ふ譯で學位を貰つたのでも何でもないのですが、其筋では撫順が非常に大きな仕事になつて來たので、相當な學者、博士の學位ある人に任かさねばと云ふやうなことを耳にしたので、どうも自分が一身を捧げて居る工場から追はれるようぢや駄目だからといふので博士號を取りましたやうな次第です。と云ふやうな面白い話をして居られました。それから又二十三萬キロの電力を出して居りますあの電力の發電所は三百五十圓の月給取がやつて居るのでございますよ。あなたが御覽になつた、あの龍鳳坑の竪坑の年百五十萬瓲から出す炭の採掘をやつて居る人は二百八十圓の月給の者なのです。一つの會社にすれば何萬圓取つて居る重役が澤山居つてやつて居るぢやありませぬか。さう云ふ僅かな收入の者で十分にやつて行けるのですから、どうも近頃金を取りたがるが、金を取つて一體何になりますかね。まあ子供をのらくら者にするのが落ぢやありませぬでせうかね。と言つて恬淡に笑つて居られました。非常に味のある言葉を聽きました譯で、久保さんがさう云ふ工合にあの撫順の仕事に一身を注いでやつて居られる樣子を見まして、私は非常に賴もしく嬉しく感じました次第であります。

それから奉天へ歸りましたのですが、翌日は奉天の見物を致しました。奉天は皆さん御承知の通り

清朝の初めの都でありまして、北京へ移ります前は此處に居つたのであります。卽ち愛親覺羅部弩爾哈赤が都した譯であります。本城の方は九町四方でございまして、其高さがやはり四十尺位もございませうか。幅も相當廣い城壁で廻らされて居り、其中に宮殿もあり町もあります。其本城の城壁から十町か十二三町離れて又ぐるつと大きく卷いて居るのが邊城と言ひます。是は小なさ土手のやうなものであります。其間が城內です。停車場から城の方へ二十町程の間が例の附屬地で、之が滿鐵の經營で現代式の町になつて居ります。立派な町であります。それから邊城までの間が商埠地と云ふ治外法權だつた各國人の居留地の場所であります。各國の領事館の跡などがあります。又各國の商人などの家がずつとあります。其附屬地の町の經營と云ふものは非常に大きなものであります。それは丁度東京驛前のあのロータリーの處の廣場の四倍位の大きさの立派な廣場がありまして、それからと驛の方からと放射的に方々へ道路が出來て居る。非常に整然たる近代都市であります。奉天は日露戰爭頃は二十萬足らずの町であつたやうでありまして、滿洲事變前までも四五十萬であつたやうでありますが、只今では八十萬位の人口になつて居ります。僅か三四年の間にさう大きくなつて居るのであります。日本人が事變前二三萬であつたのが、今十一二萬居る。斯う云ふ狀態であります。尙ほ御承知の通り大連から新京、哈爾賓の鐵道と安東縣から山海關、天津、北京へ行きます鐵道のクロスする處でありまして、滿洲平原の眞中に位し撫順の炭に近く、鞍山の鐵に近く、工業、商業の地として最も適當な場

所になつて居ります。又水は渾河が流れて十分に取り得るので鐵道の西に鐵西工業地帶と云ふものを拵へまして、工場を盛に誘致することに努めて居ります。其規模は非常に大きく是は百何十かの工場を持つて來るんだと言つて居りますが、其主要なる工場を奉天の商工會議所の人に書上げて貰ひましたが、此處に三十四書上げて呉れました。もう主要工業だけで三十四の工場が鐵西にあります。小さいのを混せるとまだ澤山あります。之がどん〳〵殖えて行く形勢にありますので、奉天は色々の意味に於て商工業の中心地となつて非常に發展するのではないか、こゝ五年も經てば又驚くべき發展振を見せることだらうと信じられるのであります。尙奉天で特にお話したいことの一つは同善堂と云ふ慈善事業であります。是は左寶貴と云ふ人の拵へられたもので、其子もそれを受繼いで拵へられたのでありますが、捨子なり或は姙娠した女で子供を育てることが出來ないやうな人に其處で子供を生ましてそれを育てる、及び主人に虐待せられて居ります藝娼妓だとかゞ逃げて來ればそれを助け、さうして立派な教育をして立派な主婦になし、又立派なものにしようと云ふ慈善事業でありまして、捨子を受取る所は塀の所に門がありまして、其處に秤のやうな臺があります。捨子を乘せると其重みでベルが鳴る。さうすると内から取りに來てそれをつれて行くのですから、捨てに來た親の顏は一切受取る人には分らない。だから全く親が誰にも知られないで其子供を其處へ捨てゝ、そつちへ取つて貰へると云ふことになつて居ります。それから姙娠した女が其處へ參りましても、其名前も聞かず何も聞か

ないで、唯預かつて子供を生ましてさうして產褥の間其處に住はして歸す。さうして其子を育てる斯う云ふ仕事であります。虐待せられて逃込んで來る者も澤山あるやうでありますが、今千人ばかり其處にさう云ふ人が養はれて居りまして、設備も非常に完全であります。一部屋、二部屋覗きました。丁度十疊位の部屋に二つか三つ位の子供が八九人嬉々として遊んでナースに勞はられて居る狀態を見て參りました。是は滿洲國に於きましても今は相當援助して居りますやうであります。本庄司令官が奉天に駐在の時分に非常に之に贊意を表せられて、本庄病棟と云ふものが二つ立つて居りました。本庄さんの骨折りで出來たものゝやうであります。さう云ふ珍らしい慈善の仕事が奉天にございました。

次に北陵と云ふ清朝第二代の皇帝のお墓がある。是は立派なお靈屋でありまして、それを拜見致しました。此お靈屋はやはり日本がそつちを眞似たのか、日本のお靈屋と餘り遠はないやうな式に出來て居ります。中々綺麗なものであります。其近くに例の滿洲事變の起つた柳條溝——滿洲の兵隊が汽車を轉覆さす爲に柳條溝の所で鐵道を破壞したと云ふ其附近、及び其近くに北大營があります。其所謂戰跡をも弔つて參りました。又清朝が蒙古を手懷ける爲に喇嘛教を盛にしたのだと云ふ話でありますが、喇嘛のお寺が隨分あるのであります。其邊にも一つ北塔と云ふのがありまして、面白い佛樣が祭られてありました。私は日本の延長である日本の料理屋の宴會だとか、ホテルの宴會では滿洲が本當に分らぬと云ふので出來るだけ滿洲の内部を見たいと思ひまして、一寸した時間を盜んではあつちこ

つち參りましたが、奉天でも寄席だとか芝居小屋だとか風呂屋なども見に參りました。風呂屋では滿人が長い間入つて垢を擦つて貰つたり色々按摩して貰つて居る所を見ました。眞裸で暢然として人が見に行つても平氣でやつて貰つて居ります。寄席も隨分ごちや〳〵してお茶を呑みながら色々の藝を見たりするのであります。汚いがのんびりして居ます。芝居も見ましたが、芝居の話は承德の所でして見たいと思つて居ります。

奉天は其位で切上げまして、それから一行は錦縣の方へ參りまして、阜新の炭礦と北票の炭礦と胡蘆島の築港計畫を見に行くことになつて居りましたのですが、私は丁度飛行機が大邱で泊つた爲に大連を見ることが出來ませぬでしたので、滿洲へ來て大連を知らぬと云ふのは龍を畫いて眼を入れぬのと同じだと云ふことを言はれましたものですから、私は一行から離れまして、飛行機に乘りまして、土曜日に大連へ參りました。飛行機が丁度一時間四五十分掛かりました。奉天から遼東半島をずつと下りて一番尖端まで行く譯であります。遼東半島には相當高い山がありますから飛行機は二千六七百米位の高さを飛んで居りますので、大分寒さが酷しかつたのであります。併し天氣が好いものですから能く見えました。それで關東州へ掛つたなと思ふ時分から兩岸が見えるのであります。尖端になるものでありますから兩岸共に鹽田が相當に澤山能く見えました。綺麗に出來て居ります。成程關東州の鹽の豐富に出來ることが飛行機に乘りましたお蔭で能く見えた譯であります。それから大連へ着きました。丁度土曜日でありますし、翌日は日曜でありますから、直ぐ自動車で訪問すべき處挨拶に行くべき處をぐるつと廻りまして、それから町を見物しました。大連の町は古く、露西亞に依つて經營せられた後又滿鐵が經營致したのでありますが、露西亞人のことでありますから中々町も大きく、都市計畫が非常に近代的に出來て居ります。第一銀行の出張所のあります通りなども——是は東拓ビルに在るのでありますが、大きな通りです。私の泊りました大和ホテルと云ふのが廣場にあるのでありますが、其廣場も大きなものです。中に散歩の出來る一寸した小さな公園がある位な立派なもので、非常に盛に感ぜられる町です。日本人が十七八萬人居るやうです。支那人を合せましてやはり四十萬位のものゝやうであります。

大連でお話せねばならぬことの一つは港の設備です。私は埠頭の事務所のルーフへ上りまして、高い建物のルーフから地圖を開いて事務所の人から說明を受けたのですが流石に千二百萬噸の貨物が積卸出來る設備だけに大きなものでありました。五千噸級位の船を何十隻か同時に棧橋へ着けられるんだと云ふやうな說明をして居りました。相當立派な設備であります。それからもう一つは碧山莊と云ふ苦力の合宿所であります。苦力は御承知の通り山東方面から出て來るのが多いのでありますが、滿洲の開發には勞働者はなくてはならないものでありまして、大連には多いときは二萬人位居るやうであります。少くても一萬二三千人は居るやうであります。其碧山莊と云ふ苦力の長屋にやはり一萬人以

上、多いときは一萬五千人位收容するやうでありますが、私が參りましたときも一萬二千人位居りました。長屋が幾棟かありまして、中を覗いて見ましたが、長屋は煉瓦造りで出來て居りますから、外から見ると中々立派に見えますが、入つて見ると實に汚らしいもので、飯場も其中にあり、やはり小頭、親方など丶云ふ制度で出來て居るやうであります。其苦力なるものは出來高拂のやうでありますが、一日八十錢位であります。多くの者は妻や子を自分の鄕里に殘して稼いでそれに送金する爲に出て來て居る譯であります　相當筋骨逞しい。又若い者が多いのでありますが、之が解なり埠頭の仕事を引受けてやつて居る譯です。單に大連だけでなしに、奥地に於きましても此苦力と云ふものは非常に必要でありまして、此勞働力の使用に依つて滿洲が段々開發せられてゐますので必要かくべからざるものです。併し此事變以來滿洲へ來るのは少くなつたため、滿洲の工業を發展さすのに入用が殖えたのと共に大分苦力の不足を感じて居るのであります。此苦力も來た初めは鄕里へ送金して居るやうでありますが、やはり何處にもあるやうに、女に身を持崩して非常に困つた地位にある者が澤山あるやうであります。之が大連名物の一つであります。

大連を見まして次に旅順へ參つたのでありますが、旅順は皆さん御承知の通り軍港として、殊に日露戰爭の戰蹟で有名であります。鷄冠山のベトンの要塞を見ましたが、今なら飛行機で直ぐ判るのでありますが、あの當時は想像も付かなくて、其處で非常な死人を出したと云ふのは尤もであらうと思はれるやうなベトンのセメントで造つた要塞で、外部からは全く山の土と同じで何も判らないが、內部には二階建の要塞がぐるつと取卷いて居つて、其處で上つて來る者を狙つて居つた譯であります。こつちから擊つた大砲の彈はベトンを上滑りして一つも效を奏さない。又其處へ跳び込むと蹠へ釘などを刺さるやうな裝置にして置いては苦しめたと云ふ涙の出るやうな跡でありました。此處でも一寸感じられましたのは、二〇三高地にはさう云ふ設備がないのであります。併し日本人の戰は、昔は名乘を擧げてから堂々とやつたやうに、やはり大砲の彈なんかのどん〳〵來る所を正面から落しに行つた譯でありませう。二〇三高地へ何故先に來なかつたか、とキッチナー將軍が言つたと云ふ話でありますが、至極同感尤もな事ですが、成程彼處ならば手薄な防備でありますから早く陷れたのでありませうが、敵の居る所へ出掛けると云ふ日本の所謂武士道的の氣分が其處にも現れて居つたのぢやないかと云ふやうな感じをして參りました　併し涙ぐましい跡が澤山ありました。

それから大連へ歸りました所が、一行が錦州へ行つて居りますからそれが歸つて來る迄まだ翌日、翌々日と暇があるのです。それで、大連は殆ど見てしまつたから大連に二日居るのも無駄だと思つて、滿鐵の伊澤理事の御好意に依つて熱河の承德へ行く手筈をして貰ひました。其晩の汽車で大連を立ち、奉天へ午前七時頃に着いたのでありますが、直ぐ九時の飛行機に乘りまして承德へ參りました。錦縣へ一遍降りるのであります。其間が一時間四十分位掛りました。丁度風に向つて居つたから餘計

掛つたのでありますが、其一時間四十分の間に一つの山も一つの丘も通らないのであります。全部平地で、遠に滿洲平原と云ふものは大きなものだと云ふことをつく〳〵と感じました。又農作的に考へて、成程耕作地面が多いと云ふことを泌々見て參りました。錦州の極く近くへ行きました時に山が一寸あつただけです。飛行機は五百米位の高さで低空飛行をやつて居つたので、下が能く見えるのであります。人の動きから犬の動きまで見える。それを飛行機の上から見て居りますのに、どうも村が富んで居るやうに思はれました。農家の様子が相當の家の構へであり、皆一廓をなして、こちらの關東や東北で見るやうなのと違ふ。其上に遼河から饒陵河、大凌河の邊では航路の右の方は相當耕されて居るのでありますが、左の方は全く沼澤であります。飛行機上から海が見えない位の遠い距離の間、ぽつ〳〵と畑地が見えるだけで、大體に此邊は蘆原であります。此邊も水利なり其他少し金を掛けて手を入れゝば澤山の立派な水田が出來るのぢやないかと考へました。

錦州で降りまして、油を入れたりしてひと休みの後、今度はずつと承德へ飛びました。此間は山岳重疊の山地を行くのでありますが、山が低いのでありまして、此路で一番高い山が千六百米であります。あとは低くて、全體としては承德の附近に參ります迄は丸い山でありまして、谿も淺くなだらかになつて相當に廣いので、其谿合が相當耕作せられて居ります。私は熱河と云つたら殆ど耕地のないやうな處かと思つたらさうでなく、谿合はよく耕作せられて居つて、相當の人家もあります。併し此

の間の山が殆ど禿山で、木のある山は極く少い。是は皆木を伐つてしまつたらしい。承德の附近に行きますと山が非常に嶮岨になりまして、妙義山以上の面白い恰好をした山が澤山ございます。それを越して承德へ參りました。

承德は滦河の上流の武烈河の沿岸にありまして、御承知の通り清朝時代の離宮があるのと、喇嘛寺があるので有名でありますが、周圍は見渡す限り禿山でありまして、此禿山が赤土色をした山で非常に綺麗であります。承德の街そのものは僅か五六萬の支那人と、三千位の日本人しか居ない。それは汚ならしい街でありますが、離宮は周圍三里の城壁で圍まれて居りまして、全體が庭と御殿とになつて、一寸形容し惡いのでありますが、銀閣寺、金閣寺の何倍か良い立派なもので、勿論避暑山莊でありますから建物は小さなものでありますが、形の色々と異つた澤山の建物があつて、又池もあり、小山もあり、鹿なども放し飼ひにせられて居りまして、非常に景色の好い、此離宮の中だけにでも一日ぐらいぶら〳〵して居りたいと思ふやうな所でありました。此離宮の裏が山になつて居りますが、其山の頂上まで城壁があつて、此山の後に武烈河の小さい支流がある。其支流の北側に又なだらかな小山續きがあつて、その連なつた小山に八箇ばかりの喇嘛寺がある。それから武烈河の向ふ側にも四箇の喇嘛寺がある。其喇嘛寺の構造と云ふものが非常に大きなものであります。山が傾斜して居りますから、段々に上つて一つのお寺の中の澤山な建物が建つて居るのであります。門から色々の建物があ

つて眞中頃に壁があり、壁の上に又お寺がある。此壁の高さが四十米と云ひますから、丸ビルよりも十米高い譯です。それがタイルのやうな瀬戸物の煉瓦で、靑い色をしたり黃色をしたりしたので張つてあるのです。さうして窓でなしに飾りの爲に造つた窓のやうなものが配つてあつて、如何にも立派に見える。其壁の上にお寺があり、又横にもあり、其配置がよく實に豪壯で綺麗であります。それが寺々に依つて又恰好なり裝置が違つて居ります。寺の一つで大佛寺と俗に謂はれて居りますのは、奈良の大佛堂よりも高い御堂が五重の塔のやうになつて出來て居る。其周りに又色々の堂が配置せられて洵に形の好いものになつて居る。まるで夢の國のやうな感じであります。觀光とすれば最も珍しい、歐羅巴にも亞米利加にも見られなかつた景色でありました。

其承德で、芝居を見に行つたのであります。それは醉酒——酒に醉つて居る人が出て來る芝居でありますが、役者が能のやうな古代的の服裝で登場をして芝居をして居る。其横に現代の服を着て鳥打帽を冠つた囃方が居る。さうして小道具が後ろの方に積んであつて、芝居して居る人の所へ持つて來てやるのでありますが、其小道具方をやつて居る十四五の子供は日本の小學生の着る樣な洋服を着て居る。それから大道具方がスエーターを着た男、それがうろ〳〵して居るし、偶には又樂屋からちよろ〳〵と子供が出て來る。それが見て居る人にもちよつとも目障りにならず、そんな古代と現代の不調和がちつとも氣にならぬ。又役者もそんなことをちつとも氣にせずに一生懸命にやつて居る。

（私も初は妙に感じたのですが、好きなものだから非常に面白く見ました）私は是が滿人の國民性を遺憾なく發揮して居るのだと思ひました。日本ではうろ〳〵するどころぢやない、小道具の出し方が惡かつたから團十郎が癇癪を起したとか、菊五郎がどうしたとか云ふ話が殘つて居ます。又そんな者が出たら見物人がどの位騷ぎますか。さう云ふ日本人の潔癖な點と較べまして、悠長と云ふのか、こだはらない——無頓着と言つて宜いのでせう。さう云ふ滿人の國民性がはつきり其處へ出て居ると私は思つたのであります。それともう一つ、承德で聞いたのでありますが、彼處はやはり北支に近いので、北支の敗殘兵の共匪が時々出て來て侵したやうであります。私の行きました時分にはもう納まつたやうですが、其少し前に或る停車場が侵されまして、燒かれて、日本人の驛員が連れて行かれた。さうして匪賊は、お前は働き手で、俺等と同じ仲間なんだから、お前をどうすると云ふ氣持は一つもない、吾々の共通の敵は外にあるのだ。お前は歸つて宜しいと言つて、金を三圓呉れて歸した。其三圓が朝鮮銀行券の新しい札であつた。斯う云ふのであります。共匪はさう云ふ風に懷柔するのが非常に上手であつて、其邊の滿人も旨く手馴づけられるやうであります。ですから滿人としましては本當の氣持がどつちにあるかと云ふことは安心出來ない狀態で、力が强ければそつちの方に行くと云ふことは火を睹るよりも明かであります。又金がさう出るのは、どうも露西亞から軍資金が來るのではないかと云ふやうな話でありました。共匪と云ふものが上手に懷柔をやつて居ると云ふことの實際の一

例であります。然し現今に於ける全滿の治安はよろしく關東軍司令官のお話では匪賊は多く見て四千人を出でず之も今冬期に退治る計畫との事です。只今殘れるものは共匪卽ち思想匪であるだけに懷柔は困難な樣です、東邊道には鮮人の思想匪も居る樣ですが、全體としてアメリカのギャングの數より少ないかも知れません樣です。

それから翌日奉天へ歸つたのでありますが、其次は本溪湖を訪ねました。本溪湖は滿洲に於きまして一番石炭なり鐵の好い條件の所でありまして、石炭は所謂コークス原料の良い石炭ばかり、中には低燐コークスの原料炭もあり、それが相當大きな埋藏量を持つて居る。鐵も六十%前後の富鑛が數百萬噸ある。それは五百萬噸と言つて居りましたが、採ればまだ出て來るやうであります。其他三十二三から四五%の貧鑛は何億と云ふ埋藏量であります。貧鑛の鑛質も鞍山のやうに惡い不純物の入つて居ることがない爲に、蒸すと云ふやうな裝置なしに簡單に之を碎いて、一圓以内で選鑛し得ると云ふ話でありました。さう云ふ良い場所でありまして、今度の五箇年計畫で鞍山と共に數倍の大きなものにする樣です。

之を一日見まして、今度は新京へ參りました。新京は御承知の通り國都でありますので、其建設の規模の宏大なことは大變なものであります。廣場も奉天や大連の廣場と違ひまして、非常に廣い廣場を中心としまして放射的に道路が出る。其中心の廣場の他にもあつちこつちに廣場があつて道路が放射して居る。官衙が又堂々と立派に出來て居りまして、滿洲中央銀行も一番大きな廣場に立派なのが出來て居ります。けれどもまだ建設の途中にあるので、空地が非常に多いのでありますが、規模の大きなのは驚くべきものであります。之の大規模な計畫を滿し之を維持する事は今後並大抵でないと思ひました。一寸暇の時間の間に元の長春の街へ出まして、其處で回々教のお寺を見て參りました。八百戸程の信徒があるやうであります。回々教のお寺と云ふのは一寸珍しいのであります。禮拜堂も相當大きなものであります。禮拜する前に沐浴するので、其體を淨める場所も見て參りました。それから是は外でも見て參つたのでありますが、長春でも舊い中流より一寸上位いの人の家を見せて貰ひました。長春には城壁が奉天の樣な大きなのがありませぬので、滿洲馬賊、匪賊、其他の盜難なり掠奪を避ける爲に、自己防衛の意味に於きまして十五戸が一つの團體を作つて一つの城壁を送つて居る。是はやはり二間位の高さの塀がずつと廻らされて居つて、大きな門があつて、其門を入ると其處に家が十五戸ある譯です。其一戸を見て參りました。其造りなんかを申して居りますと長くなりますから省きますが、さう云ふ日本には見られない裝置であります。

新京で一日自由な日が出來ましたので、吉林を見たいと思ひまして、二人の友達を誘つて行くことにしたのであります。最初は汽車で行つて汽車で歸らうと思つたのでありますが、汽車は非常に延着が多いので、其晩の五時に哈爾賓に行く汽車に間に合はぬかも知れぬと云ふので、自動車を吉林へ廻

はして置いて、歸りは自動車で歸ると云ふコースを取つたのであります。吉林は滿洲の京都に例へられる舊い町でありまして、松花江（スンガリ）が此邊で川幅三百米から四百米あるでせう。此松花江の岸にあつて、實に景色の好い所です。新京から百十粁で、九十粁程の間は丘陵はありますが大體に於て平地であります。九十粁程から一寸山地になつて、小山が傍にあり、松花江の對岸の楊の木の生え工合其他が非常に好うございました。吉林の北部に北山と云ふ山がありまして道教のお寺があり、關帝廟があり藥王廟があつてお寺の配合が好く、其上に其寺から見下した景色が非常に好い。這に京都を想はしめる町であります。吉林から二三十粁程上流に、松花江の水を堰止めるダムの工事をやつて居りました。此上流三十二三里の所に二三萬の人口の町がありますが、もう一寸堰堤を高くして堰止めると此町が潰れてしまふので、此町を殘す程度の高さに堰堤を造つて居ります。此三十里の間水が溜るのであります。大井のダムは二里半、庄川のダムも三里位の間の水が溜るのでありますが、是は三百米の河幅の上流に於て三十里の間の水が溜つて湖が出來るので、此水量は大變なものでありましてこの場所の發電所で六十萬キロの水力電力が出せる。六萬キロ出るものを先づ六臺据えて三十六萬キロ、第二期に四臺据えて二十四萬キロ出さうと云ふ計畫で、今しきりにやつて居ります。此電力が出來ますと、此處に又電力に依る仕事がどん〳〵出來る譯であります。

新京への歸路自動車の沿道は豆の產地で、丁度豆秋の事とて村々に豆の袋を道傍に積んで搬出トラ

ックを待つて居ました。それからこの邊は山地に近いので以前は匪賊が出沒した所ですが、村の家を集團的にして塀を圍らして共同自衞せしめたので被害がなくなつた樣ですが、集團自衞の村があちこちに見られました。新京に近い所に天理教の移民村がありました。主に野菜を作つて新京方面へ賣り出す樣で都合よく行つて居る樣です。

新京を見ましてから哈爾賓へ參りました。哈爾賓は御承知の通り露西亞人が建設した街でありまして、今でも白露人が三四萬居ります。日本人がやはり三四萬、それから滿人が三四十萬、四五十萬と云ふ人口の場所です。是は露西亞の經營の跡が遺つて居りまして、キタイスカヤなんと云ふ街は全く露西亞の街であります。歡樂の設備はもう皆さん聞いて居られるでありませうが、是は東洋のものとは違つてキャバレーなんと云ふものが今でも澤山あります。踊子が踊つたり色々やつて居るやうな場所が何軒もありまして、歡樂境として有名なものであります。此處で私が見まして著しく感じました一つ二つを申しますと、今はソヴイエトになつて宗教は撲滅せられて居りますが、彼等がこつちへ來た時分は宗教の盛な時分で、最初にチャーチ――ニコライのお寺を造つて、それから經營の仕事を始めたそうでそのお寺があります。丁度日曜に際會しましたが、やはり露西亞人は隨分お詣りして居りました。お寺へ詣つて居る人の人相は決して惡いものでない、柔い感じの人が多いのであります。又露西亞人の墓へも參りましたが、墓の中にもお寺があつて、周りに澤山墓があります。日曜のことで

非常に墓詣りが多うございましたが、如何にも柔い好い感じを受ける人が多かつた。今は宗教を撲滅して居る露西亞そのものは是と反對なのだらうと思はれるのであります。それからもう一つ私が異樣に感じましたのは、此邊の松花江(スンガリー)が千米河幅があるのであります。夜の宴會までの一時間位あるのを利用して、松花江の入陽を見たいと思ひまして、私獨りで河緣へ行つたのであります。此河岸のキタイスカヤ街の端からヨット倶樂部まで十丁程の間散步道路になつて居りまして、景色の好い處であります。其處をやはり白露の人が夫婦なり兄妹なり三々五々、澤山出て來て散步して居ります。所が滿人は極く僅か、日本人と云へば神經質のやうな男が獨り步いて居るのに出遭つただけであります。此處いらが露西亞人と日本人との氣質の違ふ所かとも思ひました。入陽は丁度河の中へ落ちますので、非常に美しいものでした。

哈爾賓の名所を見た後、朝の汽車で立ち牡丹江へ夜八時頃に着きました。是は昔の東淸鐵道の線でございますので、驛々に元の驛に從事して居つた白露人が其儘隨分澤山使はれて居ります。どの驛にも澤山居る。驛の警衛に當つたり、驛員になつて居るのも多いやうであります。橫道河子と云ふ所には七八百の白露人が居るやうでありました。驛々に露西亞人の家が見えたり、露西亞人がうろ〳〵して居つたり、滿洲としまして一寸又別の感じを與へる線路でありました。ハルビンから三四時間の間は平原ですがそれからは山地に入ります。所謂森林地帶で相當の森林でありまして、白樺、落葉松、楡、其他の木が澤山あります。景色も中々よろしく大部日本とは異つて居ます。此線路に付て一番不思議なのは山地を行くのにトンネルがないことであります。それは露西亞の時代に、戰爭の場合にトンネルをやられたら回復が難かしいので其間交通を遮斷せられると云ふので、トンネルを避けて山をぐる〳〵廻つて上つて越す、やり方をしたのです。九州へお出でになつた方は矢嶽へ行かれた經驗がありませうが、あの式にぐる〳〵廻つて居る。だから自分の通つて來た線路を下に二つも見ると云ふやうにして山を越して行くのが、一寸變つた所であります。牡丹江に着きましたのが夜もう暗くなつてからで、而も燈火管制です。燈火管制の練習は始終やつて居る。何と云つても露領が近く、襲はれる時は此處が一番先なのでありますから、燈火管制は實に完全です。とても外なんか步けはしない。眞つ暗なのです。だから何も見られない。而も、次は圖們へ行くのですが、水害の爲に線路が大分荒されて汽車が晩くなると云ふので、朝五時に立つと言ふ。夜暗がりに着いて朝暗がりに出たので、行つただけで牡丹江そのものに付ては殆ど何も知らぬと言つて宜いのであります。此牡丹江は人口が三四年前には僅か三四千人だつたのが、今は十一二萬になつて居るそうです。是から佳木斯へかけて例の移民の中心になつて居りますし、東北にかけては防備の中心になつて居りますから、そこで此町が急に發展した譯でありませう。併し此方面の土地は非常に豐沃で、日本人の開拓に最も適して居つて、相當の人を容れる廣大なものであります。防備の規模も非常に廣大でありまして、哈爾賓に移民

の訓練所が出來て、其處で訓練してこつちへ送つて居るのであります。

さう云ふやうな次第で圖們へ向つたのでありますが、是は滿洲事變後急に造りました線で、匪賊を防ぐ關係上線路の兩側五百米の所は木を伐採して燒いてしまつてありますが、其奥は皆森林地帶で、相當の木が繁つて居ります。さうして間もなく東京城へ着きまして、色々な舊い名所が見えました。間島へ入りますと、間島は御承知の通り朝鮮人の國のやうでありまして、人口七八十萬の中八割五分まで朝鮮人、滿人は僅か一割少ししか居ないのであります。是はまあさうでせう。長白山山脈がずつと入り込み分水嶺は背後に來て居ります。其中にあるのでありますから、地勢から云つても何から云つても朝鮮と關係が深い。それから圖們へ行きまして、圖們から朝鮮へ入つた譯であります。

是で滿洲に於ける私の足取りを申上げたのでありますが、此處で少し締括りまして、滿洲に關する私の感想を簡單に申上げたいと思ひます。上述の樣に貧鑛處理に依りまして鞍山の二十億噸の鑛石が生きて來ました上に、石炭が撫順にはまだ六七億噸殘つて居るやうであります。それから本溪湖にも相當ある。其上阜新と云ふ所に四十億噸の埋藏量を持つて居る石炭がある。是を年に七百萬噸出さうそれから北票にも相當にある、さうして此等の石炭を錦州の極く近くの胡盧島と云ふ處へ築港をして大連の代りのやうなものを拵へて、是へ出さうと云ふ計畫をして居ります。其外四平街の東の西安と云ふ處にもそれから密山及び其の附近にも相當澤山の石炭山があります。それから東邊道はまだはつ

きり判らないやうでありますが、通化附近にやはり相當の石炭がもう發見せられて居ります。此邊には鐵鑛もあります。それから滿洲里の近くに札賚諾爾と云ふ處がありますが、此處にやはり三四十億の碣炭があります。斯樣に石炭の埋藏量が澤山あります。而も此層が非常に廣いさうでありまして、筑豐なんかで一尺八寸と云ふやうなものすら掘つて引合つて居るのとはまるで雲泥の相異で、何十尺と云ふやうな層で、又採炭費が安い。阜新なんかも撫順と同じやうに露天掘をやつて居る。さう云ふ安價に掘れる炭を豐富に有つて、さうして貧鑛が物を言つて來て鐵の鑛業が相當盛になつて居る。之を見まして、鐵及び石炭を原料にした工業は金さへ掛ければ相當有利に發展するのぢやないか、今の修正五箇年計畫それは決して大風呂敷ぢやない、金さへ掛ければ十分に行くのぢやないかと感じて參りました。

農產物は、最近に於きましては千七百萬噸位出來て居ります。大豆が四百萬噸で、一番大きなものであります。何と云つても滿洲はやはり農が本位でありまして、人口の九割まで農に從事して居るのであります。其農もさつき申上げましたやうに、奉天附近に於ても相當考慮して宜い、金を掛ければ耕作出來る場所がある上に、新京附近から哈爾賓、牡丹江、佳木斯、此方面にかけては金を掛ければ相當に發展し得るのぢやないか。是も五箇年計畫で四五億の金は此方面に掛けるやうであります。木材も相當にはあるし、斯樣に見て參りまして、其上鴨綠江の電力なり松花江の電力なり、又火力で安

く發電し得るので、此電力の豐富な點を見まして、それと同時に關東州沿岸方面に於て鹽が相當採れる。又鹽のうんと採れる天津から山東の方面にも近い、鹽と電力が化學工業の一番の主要原料でありますから、さう云ふことを考へますと、金を注ぎ込めば相當の發展をし、採算的に行くのぢやないかと考へるのであります。それで、是は少し詳しくお話したいと思つたのですが、長くなりましたから簡單に致しますが、六十億圓使ふと云ふ此五箇年計畫も、私は決して大風呂敷ではないと思ふのです。それだけ掛ければそれだけの效果が擧るものだと思ふのであります。だから是は出來るだけ援けてやるべきぢやないかと、斯う感じて來ました。是が日本の外國爲替、其他金融市場に惡影響を來さないならば、出來るだけ此計畫に資金を供給して之を援けてやつて宜いぢやないかと云ふのが、私が滿洲をずつと廻つて得ました結論であります　滿洲の事業が發達すれば日本の夫が壓迫を受けるではないかと云ふ事に付ては別に救濟の方法ありと思ひます。

それと共に、大變長くなりましたが、銀行に關したことをもう少しお話して置きたいと思ひます。滿洲の銀行預金が今九億餘圓あります。大體に中央銀行が三億、興業銀行が三億、日本の銀行が一億五六千萬、外國なり中國の銀行が二三千萬づゝ、それから滿洲土着の銀行が三千萬位、斯う云ふ風になつて居りますが、其中滿人の預金が非常に少い。之を私は不思議に感じたのであります。是だけの豐富な土地を持ち、又飛行機で見たり街を自動車で通つて見て相當富んで居るやうに、見えるのに預金

の少いのは何故かと云ふことで、私は方々で質問したのですが、結局納得の行く樣な答辯は得られなかつたのであります。色々研究の結果私の得ました結論は、或は間違つて居るかも知れませぬが、是は治安が惡くて不安が伴つて居るが爲に預金しないと云ふことも一つの理由でありますが、大きな理由は個人貸借が盛で、銀行を仲介としないで貸借をして居ると云ふことではないか。此高は相當大きなもので、何億と云ふものになつて居はしないか。それはどうしてかと云ひますと、銀行に對する信用よりも個人間の信用に對する責任觀念が非常に强い。其結果個人に貸して置いて間違ひがない。勿論個人貸借は金利が高いので、銀行へ預けるよりは有利でありますが、結局は個人貸借が信用が出來ると云ふことから來てゐる。それは大連で其話をした時に聞きましたのでは、歐米でも同じだつたのでありますが、破產した場合に破產財團の債權者に對する配當が八割以上、場合に依つたら十割だと云ふ。所が日本では是が一割五分か二割、三割以上配當になつたと云ふことは中々見ない。滿洲では二割とか三割、四割とか五割しか出來ないのだつたら、其男は所謂遣繰りをして居つた、信用を濫用して來た男だと云ふので非常に制裁を加へられて、もうさう云ふ人間とは取引しない、相手にしないと云つて捨てられるものですから、其男は苦力になるより仕樣がない。苦力になれば殆んど浮び上れない。一日八十錢の勞働者になつてしまふ。是は法の保護を受けないからさう云ふ風に社會的制裁が强くなつて來たのだらうと私は思ひますが、兎に角社會的制裁が强いので信用に對する責任觀念が强い。

それで個人貸借の口約束だけで手形も何も取らないのが相當にあると云ふのです。其爲に銀行に預け銀行が貸出すと云ふ銀行の仲介作用を必要としないと云ふ點が、此預金を少くして居る一番の理由らしいのです。其外もう一つ是と同じやうな意味で匿名組合が多い。役人とか何とかで金の出來た者がやはり預金せず親類とか知人の商賣に出資して居る。斯う云ふ譯で預金が少いのです、今一つは質屋業の盛な事です、統計に出てるだけで四千萬圓以上になつて居る上に日本と異る點は質物が生活の必要品である事です（日本では大體贅澤品不必要品ですが）斯樣なわけで實際上預金になるべきものは相當にあるのだと云ふやうに見て來ました。此信用に對する責任觀念の强い點は、吾々日本人は餘程反省せねばならぬと思ひます。殊に保證と云ふことは滿洲では絶對的に間違ひを來さぬやうであります。保證すればもう自分が借りたと同じやうな意味に於て必ず責任を果すやうであります。日本では保證人と云ふものは皆さんの御經驗から割出しても中々責任を果して呉れるものぢやない。相當の資産を持ちながら回避するのでありますから、信用に對する責任觀念に付きましては、滿人がさう云ふ工合になつた動機は何か知りませぬが、滿人に做ふべきだと思つて來ました。さう云ふ譯で預金が少いのでありますから、段々治安が維持せられて、銀行が安く金を貸すと云ふやうになつて來れば、今度は借手の方から安い金を使ふ意味に於きまして銀行を利用する、斯う云ふことで段々個人貸借と云ふものが銀行の仕事に變化して行く前途を持つものだ。滿州に於ける滿人相手の銀行の仕事も、今は

さう云ふ調子で少いが、將來は相當有望だと私は考へて參りました。

それから後先になりましたが、滿洲の銀行狀態はさうでありますが、貨幣の狀態も非常に好く行つて居るやうでありまして、舊紙幣は九割八分まで回收せられ、今は滿洲中央銀行券が一般に通用せられて、私が行つた時には二億七千萬圓位出て居るやうでありました。もう一つ、紙幣の一年間に於ける發行高が季節に依つて非常に違つて、三億圓のものが一億五千萬圓位に減る。非常な開きであります。是は滿洲の農作物の取引時期であるとさうでないとに依つて違つて來ると云ふので、兌換券の動きから見ましても非常に良い歩み方を示して居る事實だと、斯う云ふやうに見て參りました。

それが金融に關する報告でありますが、もう暫く面白い話を一つ致して置きたいと思ひます。滿人は信用觀念に於きましてはさうでありますが、泥棒根性と云ふものは中々旺んなものであります。懷ろにあるものを拔取ると云ふ掏摸式のものは少ないやうでありますが、持つて行けるやうな所へ置いたら殆んど皆盗られるやうであります。さう云ふ泥棒は相當なもので、それは盗られる方が惡い、さう云ふ所へ置くからだと云ふやうな觀念が强いやうであります。而も其贓品が市場へ出て來るので、小盗兒市場と云ふものが大連にも新京にも何處にでもある。所が、其小盗兒市場は贓品ばかりであつたのが、其處へ行くと便利なものだから人が來るので、盗んだものでない日用品も其處で賣るやうになると云ふ譯で段々廣くなつて、日本の公設市場のやうなものが大連なんか相當大きなのがあります。

大連出張所長の富田君も、薪割りの斧を置き忘れておいたら盗られた。どうしても要るものだから、買つて來いと云つて使に買ひにやつた所が、其小盗兒市場で買つて歸つたのが自分の處で盗まれたものだつたと云ふ話です。だから其處へ早く行けば大體買戻せるらしいのです。そう云ふ工合に發達した其市場は人が集つて來るものですから歡樂の巷にもなつて、色々の見せ物だとか、又風俗を紊す方面の連中も其處らに張込んで居る。又其奥に阿片窟がありました。之には日本人入るべからずでありますが、案内人が好い人であつた爲に連れて行つて貰つて見て參りましたが、阿片を飲む場所はやはり寢轉べるやうに寢臺になつて、それがずつとボックスのやうに仕切られてカーテンが掛けてあつて、良い所は二人、追込みのやうに五人も十人も行ける所もあります。百人位入れる設備の所が殆ど滿員で、其處で阿片を吸つて陶然と醉つて居る。それで案内人が氣を利かして、斯う云ふ工合にして飲むんだと云ふことを見せる爲に、其處で飲んで居る人にやつて見せて呉れと言つて、私が其阿片を吸付けて飲む調子を見て居ると、そこへ二十歳前後の滿人の洋服を着た男が來て、私を日本人だと思つたのですか、日本人はこれ嫌ひですねと言ふ。それは嫌ひだ、それは非常に體に害だと言ふと、其男は、いや害になりません、是は月に二三回やれば健康に非常に良いのですと云つて、流暢な日本語で話して居りました。それで私は思つたのですが、本當に惡いものだと思つて居る者は滿人では少いらしいのです。勿論中毒になつた者はよい〳〵のやうになるのですが、さうでなく適當に飲んで居る者は

惡いと思つて居ない。寧ろ良いと思つて居る人が大多數らしいのです。それで滿人全體の飲んで居る量も非常に多いらしい。一袋が四十錢で、それ一つで宜い人もあり、少し強く行つて居る人は二袋位飲むやうでありますが、それが滿洲で相當の高になつて居て其上りは税金收入、所謂專賣益金になつて居るのでせう。だから阿片と云ふものは滿洲の財政に於ては一つの役目をなして居る。と共に、阿片に對する觀念が大分違つて居るやうに、其阿片窟を見て感じて來ましたやうな譯であります。

もう少し言ひ殘したことがあるのですが、餘り時間が長くなりますので、此位で此講演を終りたいと思ひます。どうも長い間御清聽を煩しまして、恐縮でございました。

391
427

昭和十四年一月三十日印刷
昭和十四年二月三日發行

（非賣品）

東京市麴町區丸ノ内一丁目一番地
第一銀行内
發行兼印刷者　小田茂樹

東京市京橋區八丁堀二丁目十一番地
印刷人　江波清

東京市京橋區八丁堀二丁目十一番地
印刷所　エナミ印刷所

東京市麴町區丸ノ内一丁目一番地
發行所　第一銀行

終